

銭形通信

Vol.20
冬号



Activity Report

今冬のぜにがた旅行は 小豆島・鳴門海峡

12月11日・12日、冬の恒例行事「ぜにがた旅行」を実施しました。今年の旅先は小豆島と鳴門の渦潮見物です。小豆島は、本州や四国と橋で繋がっていないため島へはカーフェリーで渡ります。姫路港から乗船し、約1時間半のクルージング。2階の客室からは冬の瀬戸内海が一望できます。波は穏やかで潮風は冷たく爽快。そんな船旅気分も束の間、やはり乗り慣れていないからか船酔いしてしまったメンバーもいらっしゃったようです（笑）

小豆島に上陸した一行は、今宵の宿『リゾートホテル・オリビアン小豆島』に到着。さっそく温泉につかって日頃の疲れを癒したあとは、お待ちかねの宴会がスタート。今回はリゾートホテルということで円卓の大広間での宴会となりました。瀬戸内の海の幸を使った創作料理がつつぎと運ばれてきます。恒例の豪華絢爛『舟盛り』もドーンとテーブルに鎮座しています。

今回、スタッフをご用意した余興はダンス“め組のひと”。ラッツ&スター??に扮して顔を黒く塗ったスタッフがコミカルなパフォーマンスを披露し、会場は大爆笑の渦でした。

お次の余興は、“模擬・結婚披露宴”。実は、写真のふたりは、職場恋愛を实らせ去年の11月に入籍し、今年の6月に結婚式を控えています。この余興は、他のスタッフがふたりの結婚をメンバーのみなさんに一緒に祝ってもらおうと、当人たちに内緒で計画していたもので、ふたりにとってはぶっつけ本番のサプライズイベントでした。

びっくり仰天のふたりを尻目に、キャンドルサービス、ケーキカット、DVD上映、お母様からのお手紙など定番のプログラムが進行していき、最後は涙のクライマックスとなりました。列席者が浴衣を着ている以外はどこから見ても披露宴さながらでしょ!? メンバーのみなさんには、ふたりの門出に花を添えていただき本当にありがとうございました。



2日目は再びカーフェリーに乗船し、高松市からは高速道路で鳴門海峡へ。徳島県立『渦の道』に到着した一行は、瀬戸内海に伸びる遊歩道（全長 450 メートル）を猛ダッシュ！ 遊歩道の先端に達した私たちの眼下には、世界三大潮流のひとつに数えられる雄大な鳴門の渦潮が今まさに渦を巻いているところでした。強化ガラスの大きな床窓から見下ろす渦潮はまさに絶景と呼ぶにふさわしく、高所恐怖症のメンバーは足がすくむ思いだったことでしょう。

最後は、『渦の道』に程近いホテル『ルネッサンスリゾート・ナルト』で昼食をとり、明石海峡大橋を渡って京都に無事帰ってきました。

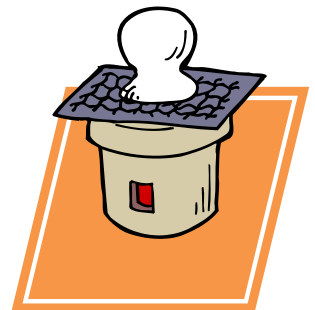
笑いあり涙ありの2日間、冬の瀬戸内海の旅はいかがでしたでしょうか？ 次回もみなさんのご参加をお待ちしています。

新春恒例『もちつき大会』

今年もやって参りました！新春恒例もちつき大会！もちつき大会は毎年恒例なのですが、移転後初となる今回はどこか新鮮味を感じました。

今年もみなさんやる気満々。力を込めてガンガンついていただきました。見ている方々もみんなで声を合わせて「よいしょ！よいしょ！」。おいしいお餅がどんどん出来あがっていきます。出来あがったお餅はあんこやきな粉などをつけていただきました。

今年も一年楽しく、また昨年よりも更に充実したデイサービスにしてゆきたいと思います。外出やレクリエーションなどなど、いっぱい楽しみましょう!!



新しい職員のご紹介



田邊 徳明 (たなべ のりあき) 所属：銭形企画居宅介護支援事業所

この度、居宅介護支援事業所に入職しましたケアマネジャーの田邊徳明と申します。少々年はとっていますがまだまだ元気です。どうぞよろしくお願ひします。



井上 雄介 (いのうえゆうすけ) 所属：デイサービス和 (なごみ)

1月からデイサービス和(なごみ)に赴任しました井上雄介です。日本人離れした風貌をしておりますが、100%生粋の日本人です。精一杯がんばりますのでよろしくお願ひ致します。

季節性インフルエンザにご注意を！

インフルエンザとは？

インフルエンザは、インフルエンザウイルスが喉や気管支、肺に感染、増殖することによって起こる疾患で、いわゆる風邪とは全く異なる病気です。

潜伏期間は通常1日～3日で、典型的な症状としては高熱、頭痛、腹痛、筋肉痛、倦怠感などの全身性症状と鼻汁、咽喉痛、咳などの呼吸器症状があります。特に熱は急速に上昇し、38度～39度、あるいはそれ以上に達します。ただし、高齢者の場合には、典型的な症状を示すことなく、微熱や長引く呼吸器症状を呈する場合も少なくありません。



インフルエンザの治療

インフルエンザの治療には、抗インフルエンザウイルス薬が効果的です。内服薬の「タミフル」、吸入薬の「リレンザ」や「イナビル」が使用されます。対症療法としては、安静を保つ、水分補給を十分に行う、体を冷やさないなどが有効です。解熱しても2～3日はウイルスの感染力が衰えないため、外出や人との接触は避ける必要があります。

インフルエンザの予防

インフルエンザの予防には、つぎの対策が有効です。

- 流行前のワクチン接種
- 規則正しい生活と十分な休養
- 栄養バランスのとれた食事
- 室内の保湿を行い、喫煙などで喉を傷つけない
- 外出時の不織布マスクの使用
- 外出後の手洗い・うがい



咳エチケットとは？

- 咳やくしゃみの際は、ティッシュ、服の袖で口と鼻を覆う。
- ティッシュはゴミ箱に捨てる。
- 鼻水やツバのついた手は石鹸などできれいに洗う。

インフルエンザの流行を拡大させないために

インフルエンザは流行性疾患ですので、人に移さないことが大切です。

- 咳エチケットを心掛けましょう。
- インフルエンザかな？と思ったら、すぐに受診しましょう。
- 発症した場合は必ずマスクを着用し、人との接触は避けましょう。
- 解熱後も2～3日は休息をとり、外出は控えましょう。



ヘルパーつれづれ日記

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願い申し上げます。

昨年は、介護保険法と障害者自立支援法の同時改定が施行され、介護福祉サービス事業分野においては、前提となる制度環境が大きく変化した一年でした。また、「要介護認定者数が500万人を超えた」や、「認知症高齢者が300万人を超えた」、あるいは「100歳以上の人口が5万人を超えた」など、高齢化の進展を改めて強く印象づける報道が相次いだ一年でした。

私たち銭形企画でも、昨年はケアマネジメント事業（銭形企画居宅介護支援事業所）の開設や、本社及びデイサービス和（なごみ）の新築移転、そしてそれらに伴う新たな組織体制の構築など大きく変化を遂げた一年でした。とりわけ、ケアマネジメントというサービスを内在化できたことは、当社にとって、介護福祉サービスの特性であり、当社の事業所理念の一つでもある「地域性」を体現化してゆくうえでとても重要な変化であったと感じています。それは、ホームヘルプやデイサービスという自前のサービスはもちろんのこと、福祉用具、住宅改修、施設系サービス、医療保健サービスといった外部の社会サービスをも含む様々な切り口で地域のご利用者様の生活支援のご提案をさせていただく窓口としての役割を頂いたことに他なりません。昨年一年を見ても、当社では近隣の方々の利用の割合が顕著に増加しており、この結果から

は当社のケアマネジメント事業の立ち上げが地域のニーズに的確に呼応した証であるという確信を得るとともに、当社の地域に対する社会的責任がこれまで以上に大きくなっているということを真摯に受け止めなければならないという思いに駆られます。

急速に進む高齢化という大きな時代のうねりの中にあるからこそ、地域福祉というものに目を向けることがより重要になっていると感じます。当社は、今後も地域の方々にとって身近な介護福祉事業者としての歩みを行って行かなければならないと考えています。昨年は、当社にとって、これまでお世話になった地域にしっかり根ざし事業に取り組んでいくための地固めの一年であったように思います。「あなたに会えてよかったと思っていただける活動を目指す」という会社設立当初からの基本理念を大切にしながら、今年も一年、地域福祉に対する貢献への取り組みを実践してゆきたいと考えています。

（執筆：上原啓輔）

